

平成 29 年度 第 3 回 清瀬市史編さん委員会
議事要旨

日 時： 平成 30 年 3 月 30 日（金）
午前 10 時 30 分～12 時

場 所： 第 2 委員会室（市役所本庁舎 4 階）

出席委員： 根岸茂夫、栗山 究、谷口康浩、浅倉直美、高村聰史、
齊藤隆雄、齊藤靖夫、岡田耕輔、中澤弘行（9 名）

欠席委員： 黒川徳男、坂間和英、黒田一美、小西一午、（4 名）

事務局： 企画部長、市史編さん室長、市史係 3 名（5 名）

《次 第》

1. 開 会
2. 平成 29 年度活動報告について
3. 平成 30 年度事業計画について
4. その他
 - 1) 『市史研究 きよせ』第 3 号について
 - 2) 市史の名称について
 - 3) 次回会議予定
5. 閉 会

《配布資料等》

1. 会議次第（平成 29 年度 第 3 回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 平成 29 年度事業報告【資料 I】
3. 平成 30 年度事業計画【資料 II】
4. 『市史研究 きよせ』第 3 号 目次【資料 III】
5. 市史の名称について【資料 IV】

《審議経過》

1. 開 会

- 委 員 長 ただ今より、平成 29 年度第 3 回清瀬市史編さん委員会を開催します。
- 事 務 局 議事に入る前に、事務局より配布資料についてご説明いただきます。
(配布資料について説明)

2. 平成 29 年度事業報告について

- 委 員 長 では、議事に移ります。
- 考古部会長 平成 29 年度活動報告について、【資料 I】に沿って各部会の部会長からご報告ください。時代順に、まず考古部会からお願いします。
- 考古部会の報告をいたします。
- 考古の資料編に向けて、時代ごとの、中心になって調査を進めていただく方がようやく決まり、体制が整ってきたところです。
- フィールド調査についてですが、市内に中世の甲冑の部品などの遺物、また、土塁の一部と考えられる遺構があり、これらについて調査を進めてきました。金属製品などについては、実測、写真撮影等、資料化の作業が進んでいます。中世の武器・武具に詳しい近藤好和さんをお願いして、鑑定していただいた上で原稿をすでに書いていただいています。
- もうひとつのフィールド調査としては、懸案となっている環境史のデータを得るためのボーリング調査を進めたいと考えており、候補地をいくつか踏査しました。
- いまのところ、実際に調査地を絞り込むところまでには至っていないのですが、いくつかの低湿地をまわって調べています。
- 市内の考古資料には、これまで発掘調査されて報告書が刊行され、ある程度資料化が済んでいるものと、まったく資料化がなされていないもの、所在自体が把握できていないものがあります。
- 既存資料の再検討で、資料編に掲載するものについては、順次、整理を進めています。
- 未報告資料と行方不明資料についても調査を進めてきた結果、行方不明になっていた「強清水遺跡」の資料が東京都の倉庫に収蔵されているのがわかり、これを清瀬市に移す手続きを進めているところです。全部が見つかったわけではなく、重要な石器が行方不明のままではありますが、数量の上では大部分のものが見つかったところです。

また、清瀬中学校にあった縄文時代の未報告資料についても、いくつか調べることができました。

資料編に掲載するものを厳選し、挿図のレイアウト作業を進めています。

簡単にですが、以上です。

委員長

ありがとうございました。次に、古代・中世部会の報告をお願いします。

古代・中世部会長

古代・中世部会では、昨年引き続き古文書調査を中心にしつつ、これまで3年間、古文書調査をさせていただきましたので、そうした調査の成果を、資料編に向けて整理しているところです。今年度、行うことができた貴重な古文書調査について、成果を今回の『市史研究 きよせ』第3号にも報告させていただいています。

古文書の現物を拝見するなかで、これまでの周辺自治体史等では解明されてこなかったことも、数々わかってきておりますので、それをまとめる形で来年度の調査に引き継いでいきたいと考えています。

細かい調査先については、【資料 I】の報告にまとめましたので、そちらをごらんください。

委員長／
近世部会長

古代・中世部会の成果の一部につきましては、去る2月に行われた「市史講演会」でも発表していただき、よい評判を得ました。合わせて報告させていただきます。ありがとうございました。

次に、近世部会について、私からお話します。

近世部会では、今、私と6名の専門調査員で基本的に月に1回集まり、博物館にある市内の近世文書を中心に調査をしています。博物館にあるなかでは、上清戸の村野家文書、下宿の高橋家文書が分量と内容において充実しているので、これを中心に見ています。さらに博物館では、書籍が古文書とは別に保管されており、こちらも調査しています。近世の書籍の中心になっているのは、往来物といわれる寺子屋で使った初等教育の教科書、もうひとつは俳諧の史料が多くありまして、江戸後期からの地域の俳句の流行がわかる史料となっています。清瀬で俳句というと、東京療養所ですごした昭和の石田波郷が言われますけれども、それ以前に江戸時代から村の中に俳句をひねる人がたくさんいたということが、清瀬の俳句の文化の源流を成しているのではないかと感じられます。それを評価しながら、今後、検討していきたいと思っています。

また、博物館所蔵資料のほかに、上清戸の旧家から物置を壊すので中にある書類を見てほしいと言われてお預かりしている資料を、今、作業室に置いています。新発見の史料もあり、検討を進めたいと考えてい

ます。

市史の事業が始まってから寄せられたものとしては、中里の旧家から新しく史料が出ました。近世、中里は武蔵家という旗本の知行地だったのですが、武蔵家の財政に係るような役割を持っていたことがわかる史料があり、中里村と旗本の関係がよくわかる史料が新しく出てきました。これまでの市史では省みられなかったところですので、こうした史料も検討しながらこれからの資料集の編成を考えているところです。

市外の文書も、埼玉県立文書館の目録から清瀬に関係するものをピックアップしています。現在 2 年間の休館中で実際の古文書はまだ見られていないのですが、たとえば志木の引又の船問屋であった西川家の史料などがあります。

清瀬の大部分は天領で、幕末には葦山の江川代官所の支配を受けていました。葦山の江川文庫で調査が行われたり、一部史料が公開されていたり、国文学研究資料館のホームページで写真が見られるようになっていたのですが、そういった中から清瀬関連の史料を集めています。

他には、志木引又の西川家は大きい家が 2 軒あり、1 軒の古文書は先ほどお話したように埼玉県立文書館にあるのですが、もう 1 軒の古文書は國學院大学の図書館に入っています。こちらも目録を検索して清瀬関係のものを集め、きちんと調査しようと思っています。

北の丸の国立公文書館の史料の中に、尾張藩の鷹場史料が見つかりました。その中に、清戸御殿が廃止された後の絵図がありましたので、これを今回『市史研究 きよせ』第 3 号の近世部会の報告に載せています。市内の方から、こんなことがわかる、こうではないかといった議論が起こるとよいと思っています。

古文書ばかりでなく現地の調査をとということで、昨年 11 月に下宿と中里を歩きました。委員の方、編さん室の方にもご一緒いただきました。特に下宿では坂間委員にその場その場でいろいろとお話をうかがうことができ、感謝しております。市内を順次まわっていこうと思っていますので、先生方のお力添えをいただければと思います。

近世の報告は以上です。

委員 長
近代部会長

次に、近代部会、現代部会について併せてご報告をお願いします。

近代部会と現代部会は一緒に活動をしています。今日は現代部会の黒川部会長がお休みですので、両部会分を併せてご報告いたします。

近代部会は、特に民権運動、受け入れ地としての学童疎開の関係資料を広くあたっています。民権運動に関しては、三多摩の民権運動に関わってくる場所なので資料を見えています。

あとは、聞き取りを1回やりました。齊藤靖夫委員にはこれまで3回お話を伺いましたが、3回目の聞き取りが今年度分にあたります。成果を『市史研究 きよせ』第3号に発表しています。

また、東京都統計の調査、収集をしています。

占領期の資料にもあたっています。占領期の教育がどのようなであったか、また病院関係についても資料を見えています。

また、市内で新たに見つかった資料の調査を行いました。その中に、水車の関係のものがありました。どんな水車が使われていたのか興味があります。

また、市報の古いものには、人口急増期のごみ処理などの様子がわかる記事もありました。上水道の問題、火葬場の問題にも注目しています。このあたりになると、委員の方々にとって身近な時代の話題になろうかと思しますので、いろいろな情報をいただけたらと思います。

現代部会では、農地改革関係の資料に目を通しており、資料編で紹介できたらと考えています。

近代部会、現代部会については以上です。

委員 長
事務 局

では、事務局から、編さん室の事業報告をお願いします。

平成29年度の事業報告について、【資料I】の最後にまとめております。

まず、市史編さん委員会の運営ですが、今年度も3回の委員会を開催致しました。平成29年度第1回委員会を平成29年5月22日、第2回委員会を11月22日、第3回を本日平成30年3月30日に開催しております。

資料調査等としましては、専門部会の運営のほか、資料収集についての呼びかけを行い、提供資料の受入れ、整理を行なっております。詳細は、【資料I】の通りです。

附帯事業の実施につきましては、『市史研究 きよせ』第1号、第2号の普及に努め、第3号を編集いたしました。また、「市史講演会」第2回といたしまして、古代・中世部会の浅倉直美部会長によります講演会「中世の清瀬市域～ゆかりの人物と文書を追って」を2月4日、生涯学習センター講座室1にて開催いたしました。

ブログ活用による事業の普及啓発としまして、市史編さんブログ「市史で候」の更新を続けております。今年度更新分を資料に添付しておりますのでご覧ください。「市史で候」につきましては、4月より、「市報きよせ」におきまして各月1日号の「市史で候 mini」というコラムでとりあげられることになり、その準備も進めております。

講座依頼への対応として、3月19日に四中校区円卓会議の依頼により

ワンポイント講座「病院街の歴史」を実施いたしました。
市史編さん室の平成 29 年度事業報告は以上です。

3. 平成 30 年度事業計画について

委員長 ありがとうございました。では続いて、次の議題になりますが、平成 30 年度の事業計画について、各部会からお願いします。まず、考古部会についてお願いします。

考古部会長 【資料 II】に平成 30 年度の計画をまとめましたので、ご覧ください。今年度に引き続き、資料編に掲載する資料を選んで図版のレイアウトを作る作業を進めていきます。さきほどもご報告した通り、それぞれの時代を担当してくださる方々が決まりましたので、早い時期に考古部会を開いて資料編刊行に向けたスケジュールをお話して、資料編の図版のレイアウト作業、資料の選定を進めていただきます。

資料調査については、郷土博物館に収蔵されている資料をもう一度検討するとともに、未報告となっている資料の図化、整理等も進めていきます。

未報告資料の再検討で今後重要になってくるのは、縄文土器の表面に付いている植物種子の圧痕調査です。多摩地域の縄文時代を通観すると、縄文中期に著しく発展しています。清瀬についてもそうです。その理由として最近クローズアップされてきたのが、当時の豆類をはじめとする植物栽培技術の存在です。そういう観点から、市内の縄文土器についている種子の圧痕を収集して、次年度以降になりますが、専門的な植物考古学的な同定作業を進めたいと思っており、そのための試料を探し出す作業をしていきたいと思っています。

フィールド調査は、いくつかの課題があります。ひとつは、環境史のボーリング調査を行う地点をまだ絞り込めていないことです。来年度は、武蔵野地域の地質学の調査研究を続けている、早稲田大学の久保純子先生ともご相談しながら、どういった調査を市内ですていくのか考えながら進めたいと思います。

また、遺跡の分布調査をしたいと思っています。昨年度も市内を少し歩きましたが、現在の地表面ではわからない旧地形があることがわかりました。大雨のときに水が流れるところがあると根岸先生から教えていただきましたが、埋没谷、旧河川が残っていると思いますので、旧地形と遺跡分布との関係も調べていきたいと思っています。

近代の、また戦争関係の遺構として、記録すべきものがあれば測量調査を行いたいと考えています。

年次報告書の刊行については、市内の土塁の調査を行いましたので、その成果をまとめた年次報告書を刊行する予定です。

また、強清水遺跡の資料が清瀬に戻ったので、意欲的にこの整理をしています。里帰り展のような展示を通してこの資料について市民のみなさんにご覧いただくような機会を作りたいと思っています。

委員長

続きまして古代・中世部会お願いします。

古代・中世部会長

古代・中世部会は、再来年度に資料編刊行ですので、来年度は調査に関しては最終の年となります。資料編にぜひ載せたい古文書でまだ見ることができていないものについて、編さん室の協力を得ながらできるだけ写真を資料編に載せられるように調査を進めたいと思っています。

また、引き続き、入稿にむけた資料のデータ調整などをしてまいります。

先週部会長会議があり、その際、板碑の調査について中世編に入れる形で進めるということで考古部会の谷口先生にご了解いただきましたので、来年度は板碑の調査をメインに進めたいと思います。

委員長／

次に近世ですが、市内の資料確認調査を基本的に続けつつ、資料編に掲載する史料を選んでいく作業を継続して行なっていきます。同時に、その史料を生んだ地域を見てまいります。

近世部会長

資料編に載せるにあたり、古文書を翻刻、つまり草書体の文字を活字にして原稿化し、資料編の原稿を作っていく作業をしていきます。翻刻について特別の予算は出ていないと思いますので、日数を換算しながら1日に何字くらい翻刻できるかをあわせ考えていきたいと思っています。

翻刻のために、新たに大学院生をお願いするなど、調査員を増やすことがありえます。

資料編の構成について、章立て等、市内の古文書の確認と併せながら、そろそろ考えていかななくてはならないと思っています。

月に1回くらい、博物館の所蔵資料を見ながら、それも併せて考えていく、そのような日程になるかと思います。

市外の資料調査も行ないます。国立公文書館のほかに、目白に徳川林政史研究所があり、そこに延宝6年、1678年の尾張家の鷹場絵図があり、この辺りが詳しく描かれています。芝山が藪地になっていたり、日枝神社が絵画的に描かれていたりします。周辺の市町村史の口絵によく載っており、見せてはもらえるので、原典を見て資料編への掲載を検討したいと思っています。

また、尾張家の古文書を所蔵している名古屋の蓬左文庫に「清戸絵図」が所蔵されているのを見つけました。名古屋まで行かないと見られそうにないのですが、なにかの機会に見たいと思っています。

他に、清瀬の辺りは幕末に一時、熊本藩の預かり地になったことがあります。熊本大学にある永青文庫の資料などを調査し、資料を載せることも考えたいと思っています。

周辺資料として、今、特に注目しているのは、所沢市城の資料です。下宿、中里の関係資料として見せてもらわなくてはならないと考えています。そのあたりで委員の先生方にもお力添えいただけたらと思います。来年度はこのようなことを考えています。

委員 長
近代部会長

次に、近代部会、現代部会について、お願いします。

まず、部会を立ち上げます。メンバーは3人、部会長2人を加えて5人です。

来年度も博物館所蔵の行政文書の調査を進めたいと思います。博物館から作業室に運ぶというお手間をおかけしますが、よろしく願います。

地方文書の調査としては、立川の砂川源五右衛門家の文書の調査がかなえば、充実するかと思っています。府中、三鷹など、周辺の自治体史の研究成果、資料を収集したいと思っています。

他に、高齢者からの聞き取りをしたいと思っています。

市内の巡検も考えたいです。

結核研究所図書室の資料も調査したいと思っています。以上です。

委員 長

ありがとうございました。

以上の、平成29年度事業報告、平成30年度事業計画について、ご意見ご質問等いただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員

高齢者の聞き取りについては、やり方に工夫が必要かと思っています。同年代が複数いるところでお互いが話をしているのを、横で聞くというスタイルが取れるとよいかと思います。または、別の会合のときに同席するような形で余談の話を聞くといったことができないか、と考えています。高齢で話を聞ける人はかなり人数が限られています。最初は先生は同席せず、録音を聞いてもらったあと、もっと聞きたいところについて、場を改めて聞いていただくといった方法もあるかもしれません。なんとか早いうちに実現したいと思っているのですが、場の設定に工夫が必要かと思っています。

副委員長

博物館の資料を調査するというお話がありましたが、第3期にあたる10月から12月には博物館の改修工事の予定があると聞いていますので、

相談、調整が必要かと思えます。

委員長 長期に資料を借り出すことが可能かどうかなど、相談してみたいと思えます。

委員 高齢者からの聞き取りは、一方的な話にならないように、立場が違う人の話も聞けるのがよいと思えます。また、聞き取った話が理解できるように、時代の背景を知っておくことも必要と思えます。

委員 市民の、農業についての関心は高いと感じています。村の原点としての農業について、市史でぜひふれてほしいです。

委員長 ご意見ありがとうございます。他に、よろしいでしょうか。

委員 了承

4. その他

委員長 では、「その他」に移ります。『市史研究 きよせ』第3号について、また、市史の名称について、あわせて事務局からお願いします。

事務局 『市史研究 きよせ』第3号につきまして、ご説明いたします。市史に関する調査研究の成果を皆さんにお知らせするとともに、市史編さん事業について広くご理解いただくことを目的に『市史研究 きよせ』は刊行されております。このたび第3号の内容が固まりましたので、目次により、その概要をお示しいたします。【資料 III】をご覧ください。口絵には昨年、国の重要有形民俗文化財に指定されました「清瀬のうちおり」、古代・中世部会の調査した北条氏照判物の写真を掲載し、これらについては、本文においても取り上げております。各専門部会の活動概要報告に加え、古代・中世部会の古文書調査報告、近代部会・現代部会の聞き取り調査については、別に頁をとって詳しく紹介しています。また、今号の新しい試みとしまして、「石碑・石仏探訪」というコラムを設け、市内の石碑、石仏を紹介する記事を岡田委員、小西委員にご執筆いただきました。また、今号は、昨年開設 100 周年を迎えた秋津駅の昭和 40 年代の写真が表紙を飾っておりますが、鉄道に関連し、本文には郷土博物館学芸員による「行政資料から見る清瀬の鉄道」の論考を掲載しております。『市史研究 きよせ』に関しましては以上です。

続きまして市史の名称についてご説明いたします。新たな市史の名称につきましては、前回ご議論いただき、最終的な判断につきましては事務局に委ねられたところですが、事務局でその後検討しました結果、【資料 IV】のように、通史編から資料編まで 1 から 6 までの番号を振るものが

よいと判断いたしました。最後に刊行される通史に1番を振ることにより、継続的に市史編さん事業に関心を持っていただけるのではないかと、全巻に番号を付番することにより、図書館などの書架に並んだときの視覚的なわかりやすさが強調できること、番号を追って時代の順を明確に示すことができ、市民の皆さんにとってよりなじみやすいものになる、という理由です。ご理解賜りますようお願いいたします。

委員長 『市史研究 きよせ』第3号について、また、市史の名称について、ご説明いただきましたが、これに関してなにかございますでしょうか。

ご異論がなければ、この形でよろしいでしょうか。

委員 了承

委員長 では、「その他」の最後に、次回委員会の予定について、事務局からお願いします。

事務局 今回は5月下旬を考えています。近づきましたら、日程について調整のご連絡をさしあげますので、よろしくをお願いします。

委員長 ほかに、全体にかかわることで何かございますでしょうか。

委員 市史編さんの進行状況を市民の方々によく知っていただくための講演会を、今後も継続して開催してもらいたいと思います。

委員 先ほどもお話がありましたが、高齢者の聞き取りは、ほんとうに、早く行う必要があります。

委員 全体の内容のなかで自然について、どのように扱われるのかが気になっています。

委員長 考古部会で環境史の調査のお話が出ていましたが、いかがですか。

考古部会長 考古の調査は、それぞれの時代の生活舞台がどのように移り変わってきたのかを中心に考えていました。現在の自然環境について調べるとなると専門の方に委ねなくてはならないと思いますので、考古編で扱うよりも、通史編の冒頭で、清瀬がどういう地域なのかを説明するなかで扱われるのが自然かと思います。通史編の議論のなかで考えていければよいかと思います。

委員長 最後に、事務局からお知らせがあります。

事務局 先日、異動の内示があり、このたび市史編さん室長が交代することになりました。4年間お世話になりありがとうございました。4月から新しい室長が参りますので引き続きよろしくお願いいたします。

委員長 委員会の立ち上げからずっと大変お世話になり、ありがとうございました。

5. 閉 会

委 員 長

それでは、以上で今回の内容はすべて終了いたしました。これをもちまして第3回清瀬市史編さん委員会を終了いたします。

平成 29 年度事業報告

- ◇ 考古部会
- ◇ 古代・中世部会
- ◇ 近世部会
- ◇ 近代部会
- ◇ 現代部会
- ◇ 市史編さん室

■ 考古部会【平成29年度事業報告】

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
考古部会打ち合わせ	4月12日 資料編目次案の提案、調査方針を決定		10月13日 中間報告、今後の方針を決定	2月7日 資料編レイアウト、項目の一部を決定、資料整理方針決定
フィールド調査	5月22日 ボーリング調査候補地及び渋谷税氏宅を巡検 環境史の試料を得るための好適地を探したが成果は得られなかった 渋谷氏宅では市史掲載の資料を実見、未報告資料を含めて調査のご許可をいただいた			
渋谷税氏屋敷地内調査		7月 所蔵資料調査(鍔片などの金属製品、鉄滓、板碑の写真撮影、作図、拓本、計測) (1月測量調査予定、来年度調査報告書を刊行予定)		3月 屋敷地内、土塁の測量調査、写真撮影 報告書原稿の執筆
市内未報告資料の調査	5月 資料収集のよびかけチラシ配布 市民からの問い合わせ一件 6月 文献で清瀬中学校所蔵の考古資料を確認し訪問したところ縄文時代の石器を発見、現在調査中	9月 東野学芸員から、博物館収蔵の未報告資料(縄文土器片、石器)を教示いただく 専門調査員が現在調査中		2月 東京都より資料移管(強清水遺跡他) 3月 資料確認作業終了
行方不明資料の搜索	4月 東京都教育委員会に問合せ中、12月に見学予定		10月 ミズクボ遺跡調査者(市外在住)に 資料の所在を問合せ中	2月 山本亮一氏について武蔵野文化協会に問合せ、名簿に名前なし
既報告資料の再検討				→
掲載資料選定・図版レイアウト				→
市内遺跡調査のまとめ				→
関連文献の収集				→
市内・周辺地域の見学	6月 中里下戸遺跡発掘調査見学		10月 新座市カミ遺跡群発掘調査見学 (下宿内山遺跡隣接地) 東星学園資料室・防空壕見学 考古資料の所蔵確認、市内唯一の防空壕遺存例	2月 東久留米市郷土資料室、府中市郷土の森博物館見学
普及活動		9月 ブログ市史で候 「清瀬中学校で縄文時代の石器を発見」公開		

■古代・中世部会【平成29年度事業報告】

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
*古文書調査 北条氏照朱印状 北条氏照書状 三田氏宗判物 大石真月斎道俊判物	4/29 青梅市 和田家 4/30 奥多摩町 原島家 あきる野市 広徳寺 5/7 仙台市博物館	8/23 あきる野市 阿伎留神社 8/24 八王子市 永林寺 9/2 館山市博物館 9/7 あきる野市 三島明神社 9/15 福山城博物館	10/7 佐野市郷土博物館 佐野市 小島家 10/8 矢板市 長沢家	3/1 町田市 河井文書 3/
* 調査古文書写真の整理	画像データの整理	画像データの整理	画像データの整理	画像データの整理
* 古文書の解説文作成 史料のデータ化	史料1点ごとにPC入力	史料1点ごとにPC入力	史料1点ごとにPC入力	史料1点ごとにPC入力
* 資料編の編集方針確認 収録史料の選定 解説文の検討 体裁・書式の検討 花押型の検討			市史研究掲載の部会報告(作成) 上杉家文書における氏照文書 6点について詳細な検討と分析	市史研究の部会報告(確認・校正) 分析結果について部会としての 見解の確認と追加文書一覧表の 作成・修正
* 今後の古文書調査の調整				次年度の調査先の検討 リスト作成と所蔵者確認作業 調査必要文書の確認
* 関係資料集および自治体史 の再確認				

■ 近世部会【平成29年度事業報告】

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
清瀬市内史料調査	博物館所蔵 村野家・高橋家 市史編さん室保管 村野家	博物館所蔵 村野家・高橋家 博物館所蔵 往来物・俳句書 市史編さん室保管 村野家	博物館所蔵 村野家・高橋家 博物館所蔵 往来物・俳句書 市史編さん室保管 村野家	博物館所蔵 村野家・高橋家 市史編さん室保管 村野家 市史編さん室保管 渋谷信之家
市外関係史料調査	埼玉県立文書館 西川家 国立公文書館 尾張鷹場史料	蕪山 江川文庫史料 国立公文書館 尾張鷹場史料	國學院大學図書館 西川家	
市内現地調査			下宿・中里現地調査	

■近代部会【平成29年度事業報告】

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
地方文書調査 聞き取り 行政文書調査 基本的文献調査 その他	三多摩自由民権史料集・三鷹市吉野泰平家文書目録 学童疎開関係文献	齊藤靖夫さん(民俗・戦後農業・農協関係) 東京都統計調査 GHQ・CIE資料調査(占領期教育)	東京都統計調査 GHQ・PHW資料調査(結核予防会)・CIE(占領期教育)	市史収集資料調査(村野家文書・渋谷家・ほか) 『市報きよせ』(環境衛生関係)・農地改革関係文書調査 GHQ・PHW調査 傷病兵資料調査

■現代部会【平成29年度事業報告】

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
地方文書調査 聞き取り 行政文書調査 基本的文献調査	三多摩自由民権史料集 陸軍偵察録ほか	渋谷信之家文書調査 齊藤靖夫さんから 陸軍偵察録 東京都神社名鑑ほか	空襲関係刊行物の調査	農地改革関係文書調査 農業関係刊行物調査

平成 30 年度事業計画

- ◇ 考古部会
- ◇ 古代・中世部会
- ◇ 近世部会
- ◇ 近代部会
- ◇ 現代部会

■ 考古部会【平成30年度事業計画】

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
考古資料編準備	掲載資料選定・レイアウト作業 (旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代)	掲載資料選定・レイアウト作業 (旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代)	掲載資料選定・レイアウト作業 (旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代)	掲載資料選定・レイアウト作業 (旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代)
資料調査 (清瀬市郷土博物館)	掲載資料選定 (古代・中世・近世・近代)	掲載資料選定 (古代・中世・近世・近代)	掲載資料選定 (古代・中世・近世・近代)	掲載資料選定 (古代・中世・近世・近代)
フィールド調査	既報告資料の再検討 (旧石器時代・古代・中世・近世・近代)	既報告資料の再検討 (旧石器時代・古代・中世・近世・近代)	既報告資料の再検討 (旧石器時代・古代・中世・近世・近代)	既報告資料の再検討 (旧石器時代・古代・中世・近世・近代)
年次報告書刊行	未報告資料の整理 (縄文時代・旧石器時代)	未報告資料の整理 (縄文時代・旧石器時代)	未報告資料の整理 (縄文時代)	未報告資料の整理 (縄文時代)
委託事業(土器圧痕分析) (野塩前原・外山・強清水遺跡)	石材調査(基礎資料・文献集成)	石材調査(基礎資料・文献集成)	石材調査(基礎資料・文献集成)	石材調査(基礎資料・文献集成)
広報普及活動	遺跡分布調査、地形観察	地形観察	地形観察	遺跡分布調査、地形観察 石材調査(フィールド調査)
情報提供の呼びかけ	中里・渋谷氏屋敷地内調査報告書刊行(清瀬市史編さん事業考古部会年次報告書1(仮))	分析委託資料の選別	分析委託資料の選別	(31年度分析委託)
部会会議・打ち合わせ	(強清水遺跡出土資料里帰り(仮)展(@清瀬市郷土博物館)、時期未定)	チラシ配布・分布調査のお願い	チラシ配布・分布調査のお願い	チラシ配布・分布調査のお願い
	開催		開催	開催

■ 古代・中世部会【平成30年度事業計画】

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
<p>*古文書調査 北条氏照文書 三田氏文書 大石氏文書 山内上杉氏文書</p>	<p>5月 仙台市博物館</p> <p>・東久留米市 多功文書 ・お茶の水図書館成篁堂文庫 ・東京大学国史研究室 ・青梅市 虎柏神社 ・前橋市 赤城神社 ・群馬県立博物館 ・長野市立博物館 ・桐生市 彦部家 ・八王子市 熊野神社 ・佐野市 小野寺家 ・焼津市 河合家 ・国立公文書館 豊島宮城文書 ・さくら市ミュージアム荒井寛方記念館 喜連川文書 ・小田原市 春日俊雄氏所蔵文書 ・長井市 平子文書 ・前橋市 松田文書</p>			
* 調査古文書写真の整理	入稿する画像データ作成	入稿する画像データ作成	入稿する画像データ作成	入稿する画像データ作成
* 古文書の解説文作成 史料のデータ化	史料1点ごとにPC入力	史料1点ごとにPC入力	史料1点ごとにPC入力	史料1点ごとにPC入力
* 資料編の編集方針確認 収録史料の選定・確定 解説文の作成・完成 体裁・書式の検討・確定 花押型の検討	収録史料の選定 解説文の作成 体裁・書式の検討	収録史料の選定・確定 解説文の作成 体裁・書式の確定	収録史料の選定・確定 解説文の作成	収録史料の確定 解説文の完成
* 今後の古文書調査の調整				
* 関係資料集・自治体史 の再確認				

■近世部会【平成30年度事業計画】

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
市内資料確認調査	月1回×3	月1回×3	月1回×3	月1回×3
	博物館収蔵史料調査撮影	博物館収蔵史料調査撮影	博物館収蔵史料調査撮影	博物館収蔵史料調査撮影
翻刻作業	5日分×3	10日分×3	15日分×3	15日分×3
	翻刻作業を日数換算			
資料編構成の検討	月1回×3	月1回×3	月1回×3	月1回×3
市外関係史料調査	月3日分×3	月3日分×3	月3日分×3	月3日分×3

■近代部会【平成30年度事業計画】

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
部会運営	部会の編成			
行政文書調査	博物館所蔵行政文書の調査	博物館所蔵行政文書の調査	博物館所蔵行政文書の調査	博物館所蔵行政文書の調査
地方文書調査	博物館・編さん室の文書調査 (三鷹市・立川市など)	博物館・編さん室の文書調査 (三鷹市・立川市など)	博物館・編さん室の文書調査 (三鷹市・立川市など)	博物館・編さん室の文書調査 (三鷹市・立川市など)
聞き取り	高齢者からの聞き取り	高齢者からの聞き取り	高齢者からの聞き取り	高齢者からの聞き取り
図書資料の調査	行政刊行物・一般刊行物調査	行政刊行物・一般刊行物調査	行政刊行物・一般刊行物調査	行政刊行物・一般刊行物調査
その他	占領期資料調査			

■現代部会【平成30年度事業計画】

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
部会運営 行政文書調査 地方文書調査 聞き取り 図書資料の調査	部会の編成 博物館所蔵行政文書の調査 博物館・編さん室の文書調査 高齢者からの聞き取り 行政刊行物・一般刊行物調査	博物館所蔵行政文書の調査 博物館・編さん室の文書調査 高齢者からの聞き取り 行政刊行物・一般刊行物調査	博物館所蔵行政文書の調査 博物館・編さん室の文書調査 高齢者からの聞き取り 行政刊行物・一般刊行物調査	博物館所蔵行政文書の調査 博物館・編さん室の文書調査 高齢者からの聞き取り 行政刊行物・一般刊行物調査

市史の名称について

＜事務局提案＞

清瀬市史 6	清瀬市史 5	清瀬市史 4	清瀬市史 3	清瀬市史 2	清瀬市史 1
資料編	資料編	資料編	資料編	資料編	通史編
現代	近代	近世	古代・ 中世	考古	

＜前回委員会での意見＞

- ・名称は「清瀬市史」とする。(新、新編などを付けず「清瀬市史」とする。)
- ・通史に番号を振らない自治体史もある。
- ・番号の振り方については、事務局預かりとし、検討する。

＜上記名称提案理由＞

1. 前の市史とは違い、全6巻であることが一目瞭然である。
2. 通史に番号を振る例は他市にもあり、最後に出る通史を1とすることで、長期間に及ぶ市史編さん事業に継続して関心を持ってもらえる。
3. 全巻通番とすることで1～6まで揃えたいくなる購買意欲を喚起する。
4. 全巻に番号を振ることにより、図書館などでわかりやすく棚に並ぶ。
3. 書籍検索においても、連番であることで前市史との区別ができ、よい。
4. 通史から資料編を参照する際、各巻に番号があると便利である。
5. 時代区分について馴染みがない読者にも時代順が明確に示せて、よい。
「わかりやすい市史」は名称から。